

少年の主張

平成27年度 最優秀賞

思いやりは 想像力から

八百津東部中学校 3年 垣内星南さん



『相手のことをよく考えて行動することが思いやりだ』…そんな言い方をよく耳にするし、私もそう思ってきました。相手のことを考えるとはどういうことでしょうか。私はその時の相手、あるいは周囲の人がどう思うかということ想像できるかどうかを思いやりの心の鍵だと考えます。

そう考えるようになったのは、ある出来事がきっかけです。休日に、私は母とともに電車で他県へ出かけました。私たちは座席に座っていましたが、駅を過ぎるたびに人が増え私たちの前には、お年寄りの男性とその孫らしき幼い子が立ちました。中学生の私が座ったままということには違和感があったので、声をかけて席を譲ろうとしました。経験もないためなかなか言い出せませんでした。母が、「席を譲ろう。」と私に提案してくれたため、思い切って声をかけることができました。その方は、「いいんですよ。どうぞ座って行ってください。」とおっしゃいました。でも、もう一度勸めてみると、「お言葉に甘えますね。ありがとう。」と、笑顔で応えてくれて自然に席を譲ることができました。この短い言葉で私も笑顔になれたし、周囲のお客さんも何となく微笑んでくれたのです。

この一件はささいなことですが、私にとってはちょっとした衝撃でした。当たり前のように使う『ありがとう』という言葉も、とても良いものだと思えるようになったのです。感謝を示された相手が嬉しいのはもちろん、言った本人も気分が良いだろうし、周囲にいる人にまで良い雰囲気をもたらします。

日常から、素直に「ありがとう」と言い続けられれば、自分の生き方まで楽しく前向きになるような気がしてきたのです。

以前の私だったら、照れくさくて正直に言えませんでした。でも、今なら当たり前のように言うことができます。相手が感謝したくなるようなことをしてあげられるのも、もちろん思いやりかもしれません。でも『ありがとう』と素直に口に出して言うこと。それも相手や周囲への思いやりだと思えるようになったからです。それからは、「ありがとう」を言われた相手がどう思うかを素早く想像して話をしたり、行動した

りするようになりました。この「想像力」を持つことが思いやりのもとであると理解したことは、私にとってとても大きな収穫でした。

そんな思いやりの心が、社会ではいつでも発揮されているかというと、残念ながらそうではないように思います。先日、スーパーマーケットの駐車場に行ったとき、入り口付近の駐車禁止区域や車いすマークの枠の中に普通の車が停めてあるという、モラルのない様子を目にしました。運転をしていた祖母はあきれたように言います。

「ああいうことが平気のできる大人が増えると、その子ども、またその子どもへと伝わってまねをしてしまう。迷惑をかけているのに人の心の分からない人が自然に増えていってしまうんだよ…。」

私もこれはよく分かります。この人たちは短時間の買い物だという程度で、深く考えてはいないでしょう。でも、その行為で車が止められなくて困る人がいるだろうし、私たちのように実際に困るわけではない人たちにまで嫌な気分を与えます。その場所を利用すべき人がそばにいても、その人たちの心を想像して行動するのがこの場合の思いやりでしょう。大したことではないはずですが、わずかな想像を働かせて、嫌な気持ちになる人を減らすだけのことです。

笑顔に満ちた社会のためには、普段から「自分はどうするべきなのだろう」と判断したり、「こんなことをされたらどう思うだろうか。」と相手のことを考えたりする機会をみんなが持つべきです。いじめや暴力が起きてしまうとすれば、それをされる人がどうなるかという想像力が欠けているからに違いないのです。

私は笑顔のある生活が大好きです。もし私がおのために貢献できるとすれば、身近な人たちの間で、誰かが気分よく過ごせるように声をかけたり、「その言葉を相手に言うのは良くないよ」と指摘をしてあげたりすることかなと思います。自分の行いは「思いやり」になるのだろうか— そんな想像力を私は失わず、これからも笑顔と思いやりの心で生きていきたいと思いません。